

## 道徳教育において朝学習を活用する工夫

吉備中央町立吉備高原小学校 教諭

土居美江子

## 研究の概要

本研究では、道徳教育を充実させ、そのねらいを達成するための方法の一つとして、道徳教育において朝学習の活用を試み、授業改善の方向を探った。その結果、道徳の時間において道徳的価値の自覚を一層深め、道徳的実践力の向上を図るためには、事前指導や事後指導として、道徳の時間と日常生活とをつなぐ時間を設けることが重要であるという授業改善の方向性が明らかになってきた。

**キーワード** 小学校、道徳教育、道徳の時間、朝学習、事前指導、事後指導

## I はじめに

今日、子どもたちの豊かな人間性をはぐくむ「心の教育」の充実が求められている。その「心の教育」の大きな柱の一つが道徳教育である。本校においても教育課程の指導の重点に「道徳教育の推進」を掲げている。

本校の児童の多くは、道徳の時間の資料には興味を持って学習している。しかし、課題意識を持って道徳の学習に取り組んだり自分の生活を振り返ったりすることが十分でないために、道徳の時間に学んだことを日常生活に生かすことがなかなかできないという現状がある。そのため、今年度から児童の心を一層豊かに育てることを目指して、今までは読書活動と教科学習を行っていた朝学習の時間に心を育てる活動を取り入れることにした。しかし、実際の計画やその実施の方法等については試行錯誤している段階である。

そこで、道徳教育において心を育てる活動を行う朝学習（以下「朝学習」という。）を活用するための工夫について探ることにした。

## II 研究の目的

道徳教育の充実のために、朝学習を活用する際の課題を明確にした上で、活用するための工夫を試み、授業実践を通して授業改善の方向性を探る。

## III 研究の内容

## 1 本校における朝学習の実際

## (1) ねらい

心を育てる活動を朝学習において実施することにより、道徳教育の基盤となる人間関係づくりを図ることや子どもたちの道徳的価値の自覚と道徳的実践力の向上をねらう。

## (2) 実施回数及び時間

- ① 回数 月2～4回（各学年の計画による）
- ② 時間 午前8時30分～午前8時45分の15分間

## (3) 実施内容・方法

各学年の児童の実態や、各領域や学習活動の特質等に応じて様々に創意工夫し、弾力的に実施する。

## (4) 現状と課題

各学年において指導計画を立てており、その活動内容としては、「心のノートへの記入」「絵本などの読み聞かせを聞くこと」などの位置付けられていることが多い。しかし、活動のねらいが不明確であったり道徳の時間の内容への関連があまり考慮されないまま実施されたりしている場合もあり、道徳の時間においても朝学習での学習内容を十分に生かすまでには至っていない。これらの現状から次の三つを課題と考えた。

- ① 道徳の時間の内容との関連性の向上
- ② 活動のねらいの明確化
- ③ 活動内容の充実

## 2 課題解決のための基本的な考え方

## (1) 道徳の時間の内容との関連性の向上

朝学習は、15分間という短時間で行う学習活動である。そのため、この時間単独で道徳的価値の自覚や道徳的実践力の向上をねらうことは難しい。しかし、道徳の時間の内容との関連性を高めることによって、45分間の道徳の時間を一層充実させることが可能になると考えた。具体的には、道徳の時間の事前指導及び事後指導という二通りの活用である。

## (2) 活動のねらいの明確化

どのような学習活動であっても、そのねらいを明確にしておかないと効果が期待できない。短時間の学習活動であれば、ねらいの明確化は更に重要になる。そこで、道徳の時間の事前指導または事後指導として、

ねらうべきことをまとめ、次の表のように整理した。

表 「朝学習」の活動内容

	時期	ねらい	活動内容
ア	事前指導	道徳の時間への雰囲気づくり	・互いのよさを認め合うゲーム ・本の読み聞かせを聞くこと ・歌唱 など
イ		資料や道徳的価値への方向付け	・心のノートを読むこと ・体験を想起すること ・本の読み聞かせを聞くこと ・教師やゲストの話聞くこと ・補助資料を読むこと ・課題についての話し合い など
ウ	事後指導	実践化への意欲付け	・心のノートへの記入 ・道徳の時間の振り返り ・実践の場や内容の紹介 ・表現活動 など

ア 道徳の時間に向けて、積極的に意見交換が行える雰囲気をつくる（事前指導）。

道徳の時間は互いの気持ちや考えを話し合うことによって道徳的価値の自覚や道徳的実践力の向上をねらっている。そのためには、何でも話せる学級の雰囲気づくりが重要になる。

イ 道徳の時間への関心を高めたり、道徳的価値の内容に向けての方向付けをしたりする（事前指導）。

道徳的価値の内容によっては、短時間で道徳的価値の内容への方向付けを行うことが難しいものもある。また、登場人物を取り巻く状況や条件などを理解していないと話し合い活動で価値に迫るような活発な意見を期待できない資料もある。そこで、事前指導としての朝学習に資料や道徳的価値への関心が持てるような活動を取り入れることにより、方向付けを行うようにしたい。

ウ 日常生活における実践化への意欲付けを図る（事後指導）。

道徳の時間においては、授業後の対応も大切であると考え。道徳の時間で学んだことについて家庭で話し合ったことや児童自身が改めて考えたことを紹介し合う活動を行わせたり、授業後に気になる子どもに声を掛けたりすることにより、児童は日常生活で実践していこうとする意欲が持ちやすくなると考えた。

### (3) 活動内容の充実

道徳の時間においては、指導方法や活動内容の多様な工夫が求められている。特に高学年では、道徳の時間に対する関心が低くなりがちであるという指摘がなされていることを踏まえて、ねらいに沿った活動を多様に設定することが必要になる。

## 3 授業実践 I

### (1) 対象

吉備中央町立吉備高原小学校児童 第4学年 18名

### (2) 期日 平成17年5月24日

### (3) 主題

「相手の気持ちを考えて（2-（3）信頼・友情）」

### (4) ねらい

友達の気持ちなどを理解することの大切さに気づき、互いに励まし合い助け合おうとする心情を育てる。

### (5) 授業の実際

#### ① 朝学習（5月24日、事前指導）

ア 活動名：「みんなとなかよくなるろう」

イ ねらい

互いの気持ちを考えて楽しく交流する活動を行うことにより、道徳の時間への雰囲気づくりをする。

ウ 内容

互いに自分の気持ちを伝え合う自己紹介や、相手の気持ちを考えながら行うじゃんけんゲームをした。特になかなか自分の気持ちなどを話そうとしないA児やB児に対して、教師が個別に声を掛けることにより、話すことに抵抗が少なくなるよう配慮した。活動を行ううちに二人の表情も和らいでいく様子が見られた。

#### ② 道徳の時間（5月24日）

ア 資料（出典）「貝がら」（4年生の道徳 文溪堂）

イ 内容

児童の笑顔があふれる中で、導入では前週に実施した学級活動「言葉のプレゼント」の感想発表を行った。



写真1 「展開の前段の様子」

展開の前段（写真

1）において主人公の気持ちを中心に話し合った際、自ら発言することはごく少ないA児から、みんなの前で話をする事ができない登場人物の気持ちを考えた発言があった。

中山君は転校してきたばかりだし、話をする友達もいなかったと思う。それに、言葉になまりがあったので、みんながどう思うかが気になって話せなかったと思う。

このことは、朝学習の活動においてA児がみんなから受け入れられているという気持ちを高め、自分から話そうという意欲を持つことができたためであると考え。教師と児童、児童相互が良好な人間関係を築き学習の雰囲気をつくっていくことの大切さを感じた。

授業後には、担任の教師から「道徳の時間の前に互いの心が触れ合えるような活動をするのはとてもよいと思う。互いに何でも話し合える、聞き合えるという雰囲気が大切だと思った。」という感想が聞かれた。

#### 4 授業実践Ⅱ

##### (1) 対象

吉備中央町立吉備高原小学校児童 第2学年 13名

##### (2) 期日 平成17年6月28日～30日

##### (3) 主題 「できたらいいな(4-(2) 家族愛)」

##### (4) ねらい

父母を敬愛し、家族の一員として進んで手伝いをしようとする態度を養う。

##### (5) 授業の実際

###### ① 朝学習1(6月28日, 事前指導)

###### ア 活動名 「家の人のじまんをしよう(写真2)」

###### イ ねらい

家族の自慢を文や絵を用いて表現し、紹介し合うことにより、家族への関心を高める。

###### ウ 内容

自分と家族との自慢を文や絵を用いて表現し、ペアになって伝え合うという活動を行った。ペアになって紹介する場面では、相手の発言に対して「優しいお母さんだね。うちもそうだよ。」「お父さんのようになれるといいね。」などの感想を交わす姿が多く見られた。このことから家族を大切に思う心が育ってきていると感じた。この活動で自分と家族とのかかわりについて考えるきっかけをつくることができたと考えた。担任の教師からは、「日ごろ、家族についてあまり話をしないC児がうれしそうに紹介をしていた。家族とのかかわりを意識させることは、家族愛という道徳的価値について自覚を深めていくステップとして大切だと感じた。」という感想が聞かれた。

###### ② 道徳の時間(6月28日)

###### ア 資料(出典)

「よし子のおるすばん」(2年生のどうとく 文溪堂)

###### イ 内容

導入において朝学習で行った活動内容を想起させた。展開の前段では、留守番をしている主人公よし子の気持ちを共感的に受け止めた発言が多く聞かれた。この



写真2 「家の人のじまんをしよう」

ことは、朝学習で家族とのかかわりについて考える活動を取り入れたことにより、よし子の立場に立って考えようとする意識を持つことができていたためであると考える。

###### ③ 朝学習2(6月30日, 事後指導)

###### ア 活動名 「家の人と話し合ったこと」

###### イ ねらい

家族と話し合ったことを紹介し合うことにより、道徳の時間にねらった道徳的価値「家族愛」について、実践化への一層の意欲付けを図る。

###### ウ 内容

道徳の時間で学習したことを家庭でも話題にしていただけよう学級通信でお願いした上で、家庭で話し合ったことを学級全体で紹介し合わせた。児童からは「よし子さんのようにできるようになるといいな。」「お母さんと話し合っ、ふろ洗いをすることにしよう。」などの発言が聞かれた。このことから、家族の一員としてどんなことができるかについて家族で話し合い、生活の場面で生かそうとする意欲が感じられた。

#### 5 授業実践Ⅲ

##### (1) 対象

吉備中央町立吉備高原小学校児童 第4学年 18名

##### (2) 期日 平成17年7月13日～15日

##### (3) 主題

「きまりを守って(4-(1) 公徳心・規則の尊重)」

##### (4) ねらい

社会のきまりや規則の必要なわけを知り、進んで守ろうとする態度を養う。

##### (5) 授業の実際

###### ① 朝学習1(7月13日, 事前指導)

###### ア 活動名 「学校のきまりについて話し合おう」

###### イ ねらい

学校生活におけるきまりについて話し合うことを通して、公徳心や規則の尊重に関する課題意識を持たせる。

###### ウ 内容

学校のきまりはなぜあるのかについて、週目標「ろうかを走らないようにしよう」を基に話し合った。児童はきまりの必要なわけについて考えたり、きまりを守ることの大切さは分かっている、なかなか守ることのできないことに気付いたりすることができた。

###### ② 道徳の時間(7月14日)

###### ア 資料(出典)

「雨のバス停留所で」(4年生の道徳 文溪堂)

## イ 内容

中心場面での、よし子の気持ちを考える話合いでは店の軒下で待っていた人より先にバスに乗ろうとしたよし子の行動を肯定的にとらえている児童が約半数いたが、周りの人たちのことを考えて順番を守ることの大切さに気付いた発言もあり、どのように行動するのがよいかについて話し合わせた。

展開の後段において自分の生活を振り返る際に、朝学習での内容を想起させた。このことにより、道徳的価値に対する考え方に変容が見られた子ども（D児）が出てきた。

D児「なぜ、後ろにさがらないといけないの。」
E児「小学生だから先に乗ってもいいんじゃない。」
T「そうだね。今の意見についてみんなはどう思いますか。きのうの朝学習で勉強したことを思い出してみましょう。」
F児「先に来て、軒下で待っていた人が先に乗らないといけないんじゃないかな。」
G児「待っている人の中にお年寄りがいたら先に乗れるようにしてあげるのがいいと思う。」
T「自分のことだけでなく、周りの人のことも考えなくてはいいんだね。」
D児「やっぱり順番を守ることが大切だなあ。」

その後、何も言わずに黙っているお母さんの気持ちについて家族と話し合ってくるという課題を伝えて授業を終えた。

### ③ 朝学習2（7月15日、事後指導）

#### ア 活動名 「家庭での話合いより」

#### イ ねらい

家族と話し合ったことを紹介し合うことにより、道徳の時間にねらった道徳的価値「公德心・規則の尊重」について、より深く自覚することをねらう。

#### ウ 内容

家庭で話し合ったことを学級全体で紹介し合わせた。「やっぱり、順番を守って乗るようにしなければと思うようになった。」「お母さんと話し合って、よし子のお母さんは、順番を守るといふきまりを守りなさいと言いたかったと思う。」などの発言があった。

また、ワークシートの記述によれば、ほぼすべての児童が周りの人のことも考えなければならぬと思うようになったことが分かった。このことから、事後指導としての朝学習で道徳的価値に対する心の変容を見取ったり、日常生活に生かしていく支援をしたりして

いくことが重要であると感じた。

## IV 結果と考察

「道徳の時間の内容との関連性の向上」「活動のねらいの明確化」「活動内容の充実」という三つの課題の解決を目指して授業実践Ⅰ～Ⅲを行った。その結果授業者及び担任の教師の観察による児童の発言や態度、ワークシートへの記入内容などに見られる変容を基にした授業評価によると、いずれの授業実践においても、ねらいをおおむね達成できたと言える。

このことから、朝学習が道徳の時間の一層の充実につながる可能性を持っていることを確かめることができた。

今回の授業実践Ⅰ～Ⅲを行う中で、道徳の時間と日常生活とをつなぐ時間の重要性を強く感じた。互いのよさを認め合う活動、家族と話し合ったことを紹介し合う活動及び生活上の課題をつかむ活動などいずれも日常生活と深く結び付いているため、児童が日常生活に目を向け、実践しようとするきっかけになったと考えられる。

また、道徳的実践力を向上させるためには、道徳の時間の中で道徳的価値について考えるだけでは十分とは言えない。日常生活の中で道徳的価値について考える機会を増やすことも重要である。この点においても朝学習が有効に活用できることが分かった。

しかし、実際には朝学習の時間は限られており、一年間を見通した朝学習の活動計画の作成や道徳の時間と日常生活をつなぐ他の工夫などについて、今後も研究していく必要がある。

## V おわりに

道徳教育において朝学習を活用する工夫を探る中で、児童に、友達との対話を通じて自分の考えを深めさせたり日常生活における自分の在り方を見直すためのヒントを得させたりすることができた。また、道徳の時間で学んだことを日常生活で実践しようとする意欲の高まりを見取ることができた。今後は、この授業実践で得たことを生かして、道徳の時間と日常生活とをつなぐ時間を大切にしつつ、家庭や地域と連携して、子どもたちの心を豊かに育てるよう取り組んでいきたい。

## ○参考文献

- ・ 押谷由夫監修、植田清宏・松井譲二編著：わくわく道徳資料集中学年，東洋館出版社，2001
- ・ 永田繁雄編著：研究授業小学校道徳中学年，明治図書，2004